

# 明日にむかって

発行／社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集／陽光保育園「明日にむかって」編集委員会  
発行日／2004年7月30日 住所／東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

45号

核家族化や少子化がすすみ家族をとりまく環境が大きく変わっています。保育園の役割も、働く父母を支えるだけなく、地域の子育てを支援する役目を果たしていくことが求められています。しかし国は、一方で子育て支援をうたいながら、一方では「構造改革」と称して保育園の補助金をカットし、公立保育園の民営化・統廃合・保育料の値上げなど、公的保育の大幅な切り捨てを図っています。板橋区も17年度から保育料の値上げ、18年度から公立保育園の民営化を推し進めようとしています。こうした経済効率優先の政策が子どもたちの育ちと父母の生活を脅かし、さらに子育ての不安をおおついくのではないかと心配です。しかし、子育てに関するすべての人々が手をたずさえ、「子どもたちに最善のものを」を一致にして、真の子育て支援の施策を考えあい行動していくことが必要ではないでしょうか。子どもたちのために……。(T・R)

◆気持ちをうくにして、子どもと向きあう方法

講師 池添 素 先生

陽光保育園では年に一回、子どものことをテーマに、子育て中の父母のみなさんや地域の方とともに大人が育ちあえる講座を企画しています。今回は、自ら開設、主宰されている「らく相談室」で、子どもの発達や成長、子育ての悩みや不安など、あらゆる相談にのつて父母や保育士から絶大なる信頼を得ている池添素先生をお招きしてお話を聞きました。

子育てとは  
見えない力を育てる



池添素先生は開口一番、「子育ては

楽しいですか？」私は『楽しい』と聞くと、嘘やうそと思ってしまう。実際

子育ては大変なことですから」と、ご

自身の子育て経験を振り返りながら言わされました。「子育てはいつからでも

やり直すことができます。私の場合、

子どもが18歳のときから子育てをやり直しました。子どものやつて欲しいこ

とを全部受けとめてあげるようにした

のです。

子育てとは見えない力を育てること

であり、そのひとつに、我慢を覚えさせることができます。「『我慢』は我慢

されることでできるようになるのでは

なく、見通しをもつことでできるよう

になる」とのこと。例えば大人は、仕事が5時までならそれまで頑張ろうと我慢できます。そういう意味で、子どもが何か買って欲しいと言つたとき、

気持ちを受けとめる



頭ごなしに我慢しなさいと言うのではなく、1～2歳のころには買って欲しないと言うものは全部買ってあげていいと言われます。これには参加者一同驚きを隠せませんでしたが、先生はこう

続けられました。「何でも買ってあげるといつても子どもが選ぶのは2個です。その2個を我慢せたり、1個だけにしなさいと言われると、自分で物を買える年齢になつてもコントロールができないなつたり、大人になつても心の奥に残ります。それより何でも買つてあげることによつて、3歳くらいになると、『買つてもいいよ』と言つても、ほんとうに欲しいとき以外は『いらない』と言えるようになり、『いつも買つてあるから今日はやめよう』と言えば、我慢ができるのです」と。

買つてあげるときにしてはいけないことは、ダメと言いながらも買つてしまつてしまうこと。また、これが欲しいと言うのに、「こっちにしたら」と違うものをすすめはいけません。親はどうせ買うならよいものを思つても、子どもにとつてそれは買つてもらえないとの同じことになるのです。

2～3歳ごろは、「いや、自分で」を出す時期です。「いやいや」ということに対して「何がいやなのか」をまず受けとめます。例えば、「お風呂に入ろう」に対して「いや」と言つたら、「入るのがいやなのね」と受けとめ、「じゃ私は先に入るね。あなたはどうする？」と選ばせてあげることが大切です。これにより、子ども自身が選び、考える力が育つています。

子どもが失敗（悪いこと）をしたときでも、頭から叱るのではなく、まずはなぜそういうことをしたのかわけを聞き、子どもの気持ちを受けとめます。小さいころは、お茶をこぼすなど物理的な失敗が多いですが、大きくなると人生の失敗をします。例えば高校受験を失敗したからといって「もう人生おしまいね」と否定的に考えては子どもも自身先が見えなくなります。それより、失敗をチャンスにしていくことで子どもが前向きに考えて生きていけるようになります。

最後に先生は、「子育てとは、自分の存在を消す作業です」と言われました。子どもはやがて親の存在がなくなります。安心は大人たちの笑顔にあります。だから、できるだけ笑顔を向けていきましょう。子どもは大人の失敗をどんなときも許してくれます。大人も、子どものすべてを受けとめ、笑顔で子育てをしていけたらと思います。

◎バザーのご協力ありがとうございました。今年の夏のバザーも無事終わりました。暑いなかご協力いただいた皆様、ほんとうにお疲れさまでした。次回冬のバザーは12月5日(日)の予定です。

## 園舎を建て替えます

陽光保育園の園舎はかねてより老朽化が問題となり、建て替えが必要とされてきました。子どもたちの安全を確保し、陽光の保育を守り、待機児対策の一翼を担うべく定員を増やす、地域に開かれた施設にするなどを目標に、建設委員会（設計検討委員会、財政委員会、広報委員会）を立ち上げました。建設委員長は清水長さん（卒園児保護者）、設計は象（しょう）地域設計事務所です。仮園舎の場所も決まり、6月末に区に整備計画（主に予算の件）を出したところです。9月末まで基本設計（計画）を検討していきますので、ご意見などありましたら、どうぞお寄せください。

電話 03-3956-1068  
FAX 03-3956-9862  
E-mail yohkoh@deluxe.ocn.ne.jp

### 募金のご協力よろしくお願いします

建築資金のための「ひまわり基金」を募集しています。下記口座に振り込んでいただけますと幸いです。

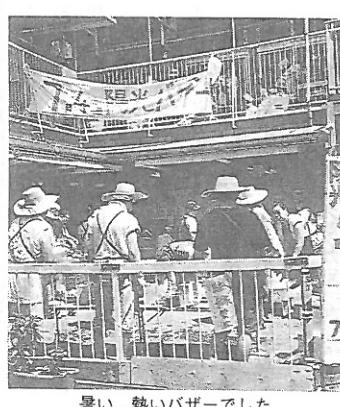
郵便振替口座 0014-5-25157

加入者名 社会福祉法人陽光会 陽光保育園

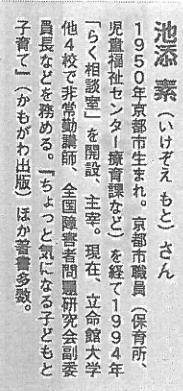


◎陽光保育園父母の会・後援会  
納涼会  
とき 8月28日(土) 19時～  
場所 陽光保育園ホール  
\*一品持ち寄りで、わいわいがやがや、夏の夜を楽しく過ごしましょう。飲み物は用意します。コップ、皿、箸などお持ちください。お子さまにはヨーヨーつきを企画しています。

◎陽光保育園後援会  
夏の交流会  
とき 8月8日(日)  
場所 三浦海岸  
\*日帰りで海水浴にいきます。すいか割りなど楽しい遊びも企画しています。詳しく述べては陽光保育園までお問い合わせください。



暑い、熱いバザーでした



池添素（いけぞえ もと）さん

1950年京都市生まれ。京都市職員（保育所、児童福祉センター・教育課など）を経て1994年「らく相談室」を開設。現在、立命館大学他4校で非常勤講師、全国障害問題研究会副委員長などを務める。「ちょっと気になる子どもたち育て」（かもがわ出版）ほか著書多数。

子どもにとって大切なのは今このときで、「待つた」はありません。子どもが「遊んで」というときに遊んで遊んだり話を聞いても、それは子どもを受けとめていることにはなりません。子どもには、親と歯車のあう子・あわ

く、子どものよいところを探してたくさん伝えていきましょう。親はつい子どもでできることに目がいき、そこを頑張らせようとしますが、そうすると子どもは自己肯定感がもてません。

子どもの価値を認めてあげないと、子どもになってしまいます。

### 参考者の声

☆ユーモアいっぱい、経験に基づいて入り込みやすく、関西弁に親しみを感じた。印象に残ったのは、①思春期の考え方、「信頼してよ」と伝える大変さ、②命を教える大切さ、③子どもにこうあってほしいと思うと、そこにこだわってよいところが見えなくなる、④大人がキレてる？ そのとおりだと思う。反省。

★子育てすることは次の世代の親を育てる。そこまで考えていなかったので、この言葉に感動！

☆大いに反省することばかり。せめて今日ぐらいは笑顔で子どもと向き合って子育てしたいと感じました。

★子どもを一人の人格者（人間）として接する、受け止める、そしてお互いに話し合うということを聞き、改めて子育てがとても楽しみになりました。子どもが投げる意外な球種を楽しみに、そしてそれをどのくらい受け止められるかという自分（親）の力を楽しみにしたいと思いました。

☆仕事が重要で子どもが次になっていた自分を反省。安心できる家庭が築けるよう頑張っていきたい。

★安心できる関係をつくることの大切さを改めて感じました。そのためには自分自身をもっと楽にする必要があります。

★話のたとえがわかりやすく、心にひびく言葉がいくつもあった。

「親はキャッチャーである」→どんなボールでもひろわなくちゃ。「子どもは親のどんな失敗も許してくれる」→だから子どもの失敗も親は許す。

★お話のなかに大人の笑顔の話がありました。それがほつとしました。そういう人はあまり笑っていないかもと反省。子育てはいつからでもやり直しができるという言葉に勇気づけられました。

## ヒトが人間になるとき 「遊び」と発達——0歳児・1歳児

その8

「早期教育の弊害」が脳の仕組みの研究によって明らかにされてきていて、8歳までは「遊び」が何よりも必要と言われています。「遊び」によって相手を理解することができるようになり、痛みや悲しみを共感できるようになるからです。保育園では乳幼児期から遊びを通して人の信頼関係を結び、自己肯定感が育つように働きかけています。背伸びをさせたり押し付けたりせず、その年齢にあった遊びを自ら楽しんで行えるよう、大人は見守り、手助けしています。今回は0歳児、1歳児の遊びのなかで保育園で大切にしていることと、家庭での遊びの様子を紹介します。

### 0歳児 遊びを通して 信頼関係を築く

0歳児の保育のなかで一番大切にしていることは、子どもとの触れ合いのなかで信頼関係を築いていくことです。まだ寝返りもできない赤ちゃんでも、大人が声をかけ、体に触れて遊んであげると、ニコニコ笑って、手や足をバタバタさせて喜んでくれます。例えば、赤ちゃんの胸のあたりで両手を触れ合わせ、合わせた手をゆっくり左右に開いて、「バーッ」と顔をのぞかせたり、赤ちゃんがイヤッキヤと声を出して笑ってくれるので、あやした大人も樂しくなり、さらに交流が深まり関係が出てくるのです。

(0歳児クラス・咲月の母 福森祥子)



してくるにつれ、赤ちゃんは「いなないな

いばー」や大人のまねをするのが好きにな

ります。「いなないないばー」は、壁やドア、ベッドの柵、玩具や布などを使つて、いつでもどこでも楽しめます。赤ちゃんと目が合った瞬間「ばーっ！」と声をかけるだけでニコッとしてれます。もう一回同じことをすると、今度はキャハッ！と笑ってくれます。赤ちゃんは、言葉にこそ出さないけれど、「もう一回！」というよ

うなまなざしを大人に向け、大人に期待し、それに応えてもらえると、いい笑顔を見せてくれます。

大人と一緒にする「手遊び」では、「か

いぐり・かいぐり」や、「いっぱい橋」などがあります。大人と一緒に楽しめると、「もっとやつて！」と要求す

る仕草を見せたり、共感あう楽しさを表

現してくれます。このように、赤ちゃんの

ときから遊びを通して共感することを積み重ねていくことによって、人を信頼する根っこができるのではないかと思いません。

1歳児の遊びのなかで一番大切にしていることは、「子ども自身のやりたいことや、

子ども自身の思いを育て、自己主張していく力（自我）を育てる」ことです。生まれて間もないときから培ってきた大人との信頼関係は、体の成長とも相まって、子ども

が自分から興味をもって満足するまでやらせてあげることで、感覚や感性、身体、自己肯定感が育つといきます。大人や友達との信頼関係を土台に十分に自我が育つと、

相手の気持ちも考えた上で自分のやりたい

ことを調整できるようになっていきます。

私たち大人は、子どもの気持ちに寄り添

いながら、たっぷりと手と心と時間をかけ

て子どもの成長を見守りたいものです。

### 1歳児 遊びのなかで 自我を育てる

(1歳児クラス担任 斎藤彩子)

1歳児の遊びのなかで一番大切にしていることは、「子ども自身のやりたいことや、

子ども自身の思いを育て、自己主張していく力（自我）を育てる」ことです。生まれて間もないときから培ってきた大人との信頼関係は、体の成長とも相まって、子ども

が自分から興味をもって満足するまでやら

せてあげることで、感覚や感性、身体、

自己肯定感が育つといきます。大人や友達との信頼関係を土台に十分に自我が育つと、

相手の気持ちも考えた上で自分のやりたい

ことを調整できるようになっていきます。

私たち大人は、子どもの気持ちに寄り添

いながら、たっぷりと手と心と時間をかけ

て子どもの成長を見守りたいものです。

### おうちでは 1歳児

#### ●最近お気に入りの遊びあれこれ

夏生と茅草は双児の姉妹です。ちょっと仲よく遊んでいたかと思えば、噛みついたりひつかいたり大泣きの毎日です。最近2人が気に入っている遊びを紹介します。

【路上お絵かき】家の前の道路は道幅が狭く、車の通りが少ないので近所の子どもたちの遊び場になっています。ちょっと上のお姉さんたちに交じってチョークでお絵かき。お姉さんたちのやることを何でも真似したりします。

【ウクレレダンス】ふたりを喜ばせるお父さんの必殺ワザです。ウクレレの音に合わせて楽しそうに体を動かします。このごろは大きなマラカスを両手に持って踊っています。

【バスごっこ】大人が椅子に座って足の間に2人をはさみます。「おおがたバスのってます～♪」と一緒に歌いながらガタゴト揺らし、「山に上りまーす」と右へ左へガタゴト、「到着でーす」でキーハーパタンと足から2人をはずします。セリフを変えてくり返します。

【押し入れジャンプ】床に厚めに布団を敷き、押し入れの上の段からジャンプ！（ズルズル落ちるのに近いけれど…）キャーキャー喜んでいますが、親はハラハラです。

(1歳児クラス・夏生、茅草の母 川上小百合)



### おうちでは 0歳児

#### ●今はお風呂が最高の遊び場

昨年の5月、我が家に2人目の女の子咲月が生まれました。まだネンネのころは、おむつ替えや着替えのとき声かけをしながら全身をこちよこちょくすぐったり、足を持って「おいっちに」と交互に曲げ伸ばしてやると、とてもうれしそうでした。また、手を持ってやり、私やお姉ちゃんの彩水が歌をうたうと、それにあわせて踊るのも大好きでした。

少ししっかりしてくると、休日はなるべく外へ出かけました。咲月は、犬やハトを見るだけで興味津々のようす。私が一緒にすべり台やブランコで遊んでやると、とても楽しそうでした。

パパが遊んでくれるときはとてもダイナミックで、「高い高い」や、寝転がって足に子どもを載せて揺らす「飛行機ゴーン」など、私は怖いくらいですが、子どもたちには大ウケで、「もっとやって」と、いつもおねだりしています。

おわりができるようになってからは、お風呂も楽しい遊び場になりました。私と彩水と咲月の3人で、「おふねがぎっちらこ～♪」や「海だ海だ～♪」などの歌をうたいながら、お湯をバシャバシャさせて楽しんでいます。最近ではしゃぼん玉がブームです。

(0歳児クラス・咲月の母 福森祥子)



1歳児のお散歩で砂場に出た子どもはたいてい水道の蛇口に手を差し出して、ジャジャーと流れる水の快感をたっぷりと味わいます。少し成長すると、カップやジョウロに水をやり、お風呂を使った遊びも大切です。初めて砂場に出た子どもはたいてい水道の蛇口に手を差し出して、ジャジャーと流れる水の快感をたっぷりと味わいます。少し成長すると、カップやジョウロに水をやり、お風呂を使った遊びも大切です。初めて

### 平和憲法は、 焼け跡から生まれた

片山高司



1946年3月、南の島の特攻基地から帰国した私は、祖国の荒廃の現実を目にし、呆然としました。我が家に帰る汽車の窓から見た、広島、大阪、名古屋、横浜などの大都市は、ビルの残骸が異様に見える、焼け野が原でした。横浜の我が家も、焼け跡の真中にあるひと間だけのパラック住宅でした。

人々の生活はさらに悲惨なものでした。食料不足は日常化しており、食糧切符による配給も遅配、欠配はあたりまえ、配給される食糧も、玉蜀黍の粉、サツマイモ等々、生きて行くのがやっとの食材ばかりの毎日でした。街には、浮浪児と言われた、戦争によって家を失い、両親、兄弟を失った（その多くはアメリカの爆撃によって死んでしまったのでしょうか）子どもたちが闇市という盛り場をうろつき、食べ物を物乞いし、残飯を探し、必死に生きていました。

「この子どもたちを何とか助けなければ」と強い思いをもちましたが、一人ではどうしようもありません。私は、教師になって、この子どもたちのために尽くそうと、大学に戻りました。学生仲間には、同じ想いをもった友人が大勢いました。後に『母と子供の文化社』を主宰した鈴木文次郎、小学校の教師をレッドバージされ政治家になつた小林マサ子、みんなで、上野駅周辺の浮浪児たちの実態を調査し、対策を熱っぽく語り合いました。

ちょうどそのときでした。『日本国憲法草案』が発表されたのです。『憲法前文』「戦争放棄」「象徴としての天皇制」「地方自治」「主権在民」。みんな、熱心に語り合いました。日本国民だけでなく、アジアの諸国民を苦しめた、あの太平洋戦争を深く反省していました。焼け跡から再び立ち上がり、荒廃した祖国を復興させるための大きな指針として、この新しい憲法を歓迎しました。

今、この憲法を改悪し、再び戦争のできる日本にしようとする企てが露骨に動き始めました。敗戦後の、平和と自由と民主主義を求める人々の熱い思いを、改めて思い出し、憲法が訴えている「この権利は、自らの手で守らなければならない」ことを多くの人々に訴えていきました。

(板橋区在住/社会福祉法人陽光会理事長)

私は仕事で建築屋を相手にすることが多い。建築屋は自営であれば跡取りの可能性もある。大工の子どもで建築士をめざす人も多い。名刺交換すると、名前に「匠」や「建」の字をもつ人がとても多い。彼らは親の期待に応えたのか、親の背中を見て育ち、職業を選択したのか、あるいは親の策略にはまつたのかはわからないが、きっと親の願いが叶っているんだろう。それを考へると、一筋の光が見える気がする。暗いところでも明るく、非行が流行る思春期に流されず、よい友に恵まれるかも?…。

自分が子どもの名前にこだわりや愛着があつて、意味はともかく「好き」なよ

うだ。自分もそだつたのか小さいころのことは覚えていないが、たぶん嬉しい

ことのない私に、ギャンブルめいた賭けが強いられたわ

けだ。

ひとりわかつたことは、子どもに名前でからかうと、「さくら」と「くらみ(小1)」に「くるくる……」と言つて指を回す素振りをすると、後で自分が言つたことを後悔する以上に取り返しのつかない雰囲気になつてしまつ。央朋(小3)やさくら(5歳)も同じだ。

どう育つかはわからないし、馬券や宝くじさえ買った

ことのない私に、ギャンブルめいた賭けが強いられたわ

けだ。

下の子から順にいうと、「さくら」は「明るく」「くらみ」は「堅実に」、「央朋」は「よい友に恵まる」となる。

どう育つかはわからないし、馬券や宝くじさえ買った

ことのない私に、ギャンブルめいた賭けが強いられたわ

けだ。



親から子へ最初に贈るプレゼントは「名前」である。

「名前」は親の希望や願望、そして私的にはわりと体裁